

二〇一三年 八月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

歩んでいても、とどまっても、ひとの命は昼夜に過ぎ去り、とどまりはしない。
―河の水流のようなものである。

『ウダーナヴァルガ』

河の流れが留まらないように、すべては移り変わっていきます。仏教ではこれを「無常」といい、これが事実・真実であると説きます。早いもので八月を迎えました。本当にあつという間に月日も過ぎ去っていきます。

お釈迦さまは入滅される前に「世は無常である。怠ることなく精進するように。」と言ひ残されています。私たちの命も、また日々過して「している日常生活もすべては有限です。つまり限りがあるということであり、限りがあるからこそ尊く、貴重だといえます。水流のように流れ、二度と戻らないこの時間を大切にして、自分の目標に向け精進していきましょう。

今月の聖語

今が本番 今日が本番

東井義雄

今月の聖語は、浄土真宗の寺院に生まれた教育者である東井義雄という方の「今が本番、今日が本番、今年こそが本番。明日がある、明後日があると思っっている間は、なんにもありはしない。肝心な今さえないんだから」という言葉から抜粋しました。

正に自分自身に言われている言葉のように感じます。私たちの日常を振り返ってみると、「明日やろう」「明後日やろう」というようについ後回しにしてしまうことがあると思います。平安学園は「三つの大切」の一つに「時間を大切に」ということを掲げています。今という時間を果たして大切に出来ているか一度振り返ってみましょう。「今が本番」、「今日が本番」という思いを持って日々の生活を送っていききたいですね。学校生活のなかで教訓にでもらいたいと思います。

台掌

宗教教育係